

## 歌と出会い、人と出逢う

平成 25 年 4 月 9 日

前塚嘉一

人生を豊かにしてくれるもの、色々あるが、私にとって音楽はそのひとつである。音楽といってもいろいろな分野がある。とりわけ歌には聞く楽しさ、歌う楽しさがある。ひとりで歌うのもいいし、多くの人と歌うのも楽しい。

私の世代の少し上の人らに、歌声喫茶があった。その頃は中学、高校時代であったが、聞こえてきた歌は、今も時々口ずさむ。

またラジオからは歌謡曲がよく流れて、特にフランク永井が好きであった。

学生時代にキリスト教と出会い、讃美歌の美しいメロディに魅せられた。またパートに分かれて歌う楽しさも讃美歌や聖歌から味わい得た。

1960年代後半には、フォークソングが流行し、社会性のあるプロテストソングを歌う高石ともやや岡林信康等の歌を愛好した。今も時々カラオケで歌っている。

さて合唱との出会いは、やはり教会音楽であった。ヘンデルのメサイヤやシューベルトのドイツミサ曲は、特に心に残り、教会に今も留まる力になっている。

就職して退職する38年間、合唱とは離れていたが、このメンネルコールを通して再び合唱と出会うことになる。最初が混声合唱だったので、男声だけということに不安があったが、これもいいと今では思っている。しかし時には先般のジョイントコンサートのように女声合唱といっしょもいいと思う。

とりわけ今回の「花は咲く」には、思いをこめて歌うことができた。合唱団に入って良かったと思う。歌との出会いであった。

今後も心に響き、人に届けられる歌、感動を誘う歌との出会いを願っている。

「歌ありて人生楽し」を実感したいと切に思っている。